

令和5年度 教育委員会の点検・評価 平塚市美術館協議会委員御意見（まとめ）

事業名	アートギャラリー等施設利用促進事業
事業の感想やコメント	
<p>① 目標値、実績値とも令和4年度比同等ということで、現状維持にお努め頂いていることがうかがえます。一方で目標値との乖離が大きく、その達成についての方策などは有るのでしょうか。また、この目標値を定めた経緯、事由などございますでしょうか。</p> <p>② 夏休みのアトリエ利用者数が少ないのは、その期間に美術館が教育普及プログラムでアトリエを使っているからという理解でよいでしょうか。資料を横断的に見ないとわからない部分ですが、美術館主催事業を優先して、広く市民に利用してもらう現在の方向性でよいと思います。</p> <p>③ コロナ禍明けということで施設利用に関しても依然と同様の状態に戻ってきていると思います。また、利用団体に関しては以前に利用していたが、3年間活動が停滞している方々もいられると思います。</p> <p>④ 適切な施設の管理に努められていると思います。</p> <p>⑤ 美術品の良好な保存のために維持管理に努力されている。</p> <p>⑥ ミュージアムコンサート等多くの方が楽しみにされている。</p> <p>⑦ 市民アートギャラリー 市展、文化祭、美術団体（2団体）として利用させていただいています。ミュージアムホールは市展、文化祭の表彰式で利用。美術館として作っているので使いやすく、他市町村の方々からうらやましく思われています。</p> <p>⑧ 令和5年度の実績値は、1月末時点では前年度より少ない人数ですが、3月末までを見通した場合、前年度を上回る利用者数が見込まれるため、適切な維持管理に努めることで良い傾向が続いていると思います。</p>	
今後期待すること	
<p>① 令和5年2月、3月だけで入場者数合計が5000人を超えたと読み取れます。令和6年の同時期にも同じような数字が期待できるのでしょうか。現段階では、5類に移行した今年度の実績が昨年度を上回ったとは言えず、今後の実績値も横ばいが予想されるのであれば、目標値の再考も検討すべきかもしれません。</p> <p>② 日程調整など難しい部分もありますが施設利用促進のためご尽力いただければと思います。また、利用規定に準じた使用団体の拡大の広報もご検討ください。</p> <p>③ 今後も継続をお願いします。</p> <p>④ 倉庫内に長机多すぎ。椅子が無い。（以前はあった。）彫刻台がないので、アトリエの台を利用させていただいています。アトリエで使う予定があったのにと苦情がきました。苦情を言う前に彫刻台を揃えるなり（各サイズを揃えるのは大変だと思う）アトリエの台を増やすなり考えては。アトリエの台は組み合わせ方により色々使える。ギャラリーの倉庫に入れておけば色々使えると思う。私たちは長机よりアトリエの台の方をより多く使っています。</p> <p>⑤ ギャラリーの申込者が少ないのが気になっています。抽選会の時、半室利用の方が、相手（半室）が空室になってしまうのを気にしていました。ただ抽選で決めるのではなく、抽選前に空室の所に変更することを考えてみては。そうすると、全室が空きになる所が増えて全室利用者は助かります。</p>	

- ⑥ 来館者が安心して快適に施設が利用できることは最も大切なことと考えます。このことについては現在も配慮がなされていると理解していますが、今後も利用者が快適に利用できるよう、定期的な点検やメンテナンスを行い、施設の適切な保全管理に努めていただきたいと思います。
- ⑦ 目標値と実績値の乖離が大きいため、次回の計画の際には実態を反映した目標値の設定が必要と考えます。

事業名	美術教育の普及・体験事業（ギャラリートークの実施）
事業の感想やコメント	
<p>① 展覧会開催数（≡ギャラリートーク実施回数）、一回当たりの参加者数（実施可能人数）などを相対的に考えた場合、相応の実績値だと思います。より目標値に近づけるためには実施回数を一回ずつ、あるいは一回ごとの参加人数を増やすなどすることも考えられますが、参加申し込みの状況はどの様になっているのでしょうか。</p> <p>② バックヤードツアーみたいなことはすでに実施されておりますでしょうか。</p> <p>③ ギャラリーでのトークイベントは実施し易い人数があると思います。一度に余りにも多くの方が集まると、作品の保全が難しくなり、近づいてみることができず、参加者の満足度も下がってしまいます。現在の数字は、1回あたりの人数としては適正であり、もし実績値を目標値に近づけるのであれば、回数を増やすしかないかもしれません。</p> <p>④ 比較できるような企画であると参加者増加につながると思います。「A企画展とB企画展は実はつながりがあるが、ある理由で違いが生まれた」などミステリアスな部分が参加意欲につながると思います。</p> <p>⑤ ようやく新型コロナウイルス感染症が5類になり様々なことができるようになってきましたね。なんでも4年ぶり。止まっていた3年間は、どこの施設や団体にとっても大きいと思います。今までに戻るというより（今までと比較することより）、ここからスタートという考え方が大事かと思います。それは、皆さんが4年前と比べるのではなく、4年前を知らない方にとっては、今という視点からスタートしていると思うので。</p> <p>⑥ 今の私は参加できないのが残念です。友人は楽しんでます。</p> <p>⑦ 募集、受付から開催まで調整や準備が大変な事業と推察しますが、作家や学芸員の方から、直に作品についての話を聞ける貴重な機会が提供されるため、作品鑑賞と併せた多面的な実体験ができ、より記憶や印象に残る良い取り組みだと思います。</p>	
今後に期待すること	
<p>① 継続してください。</p> <p>② 今後の事業の継続に期待します。続けることにより、参加者は興味関心を掻き立てられ、次の機会にも参加しようとする気持ちになると考えます。</p> <p>③ コロナ禍における制限も緩和されました。基本的な感染防止に努めつつ、諸事業への取り組みをさらに広く周知されたい。</p> <p>④ 今後も継続をお願いします。</p> <p>⑤ 私は2年後位には参加すると思います。意見はその時に。</p> <p>⑥ 直に話を聞くのが最良と考えますが、参加希望があっても開催日程を知らなかったり、自身の都合などから参加できなかつたりした市民のために、実施した際の動画を平塚市美術館の公式チャンネルなどで公開することを検討いただければと思います。</p>	

事業名	美術教育の普及・体験事業（ワークショップの開催）
事業の感想やコメント	
<p>① 実績値が着実に増加していることは評価できます。新たな試みも実践されているようで、その成果だと思えます。今後の活動にも注目・期待しております。</p> <p>② 令和5年度の実績値 1864 人が、何の合計か教えてください。</p> <p>③ 限られたマンパワーの中でワークショップを 27 回、つまり、隔週で実施していることは評価できます。基礎自治体の美術館として、市民の美術活動参加に直接寄与することは大切だと思います。</p> <p>④ ワorkshopに関してはそこそこできた作品を一堂に集め、展示することはほかの作品から何かを感じることができる機会だと考えます。年齢差のある企画の作品展も興味がわくと思います。</p> <p>⑤ 小中学生の参加する機会や人数が、ほぼ目標値に近いことがわかりました。引き続き、事業の発展周知に努めてほしい。</p> <p>⑥ 大きな成果が出ていますね。</p> <p>⑦ 本校も対話による美術館賞に算かさせていただきました。本物に触れる（見れる）体験は子どもたちにとっても大きなものです。そして、事前に学校に出向いて教えていただいたことがあるからこそ、より本物をみた時の感動があるのだと思います。大変な事業化と思いますが、学校としては、今後もぜひ継続していただけるとありがたいです。子ども達の美術への関心がとても高まりました。</p> <p>⑧ 公民館の絵画教室、事業所の同好会が少なくなり、絵画人口も少なくなっています。ワークショップの活動だけでなく、学校の美術教師が地元の公民館で教室をする美術家協会に参加して、市展、文化祭に協力する等してほしい。先生達は忙しくなっていて、そんな事はできないとの事ですが、以前のように専科の先生方の雑用をなくして社会貢献していかなくてはいけないのでは。絵を描く人が減っています。文科省、教育委員会の問題だとは思いますが。</p> <p>⑨ コロナ禍における制限も緩和され、実績値の回復が顕著になってきています。令和5年度の実績値が目標値にあと1歩のところまで来ている状況は、関係職員がコロナ禍にあっても持続的に事業に取り組んできた成果の表れだと思います。</p>	
今後に期待すること	
<p>① 新しい視点に立った企画・運営を期待します。研修会の開催により、美術教育が浸透し、拡大することも期待します。</p> <p>② 今後も継続をお願いします。</p> <p>③ ワorkshopの助手をした事がありますが、子ども達相手にするのは楽しくできました。絵を描く人が増えますように。</p> <p>④ 裸婦クッキー、裸婦デッサン会をしたいと思っていますが、公民館では裸婦はダメ。会費を集めるのもダメと言われて10年間できません。美術館でも会費を集めるのは事業になるのでダメ。裸婦はダメと言われています。</p> <p>⑤ ワorkshopは、座学とは違い、体験をするため記憶に残りやすく、身につく経験ができる良さがあると思います。その効果を図るため、例えば、受講者アンケートに「美術をより身近に感じる事ができた」などの測定項目を設定し、その結果を参考にすると効果がわかりやすくなると思います。</p>	

事業名	魅力ある美術展覧会事業
事業の感想やコメント	
<p>① 年間を通じた展覧会の企画・構成はバリエーションに富み、大変興味深く思います。もとより美術館運営は来館者数を増加させる事だけが主眼ではありません。内容と質を兼ね備えた展覧会を企画・実行することが重要で、その観点から言えば現状は十分に評価できると思います。展覧会関連事業や広報と併せて引き続きご検討をお願いいたします。</p> <p>② 近隣の他の文化施設と連携・連動したプロジェクトなどを企画・実行するのは難しいのでしょうか。あるいはすでに行っておりますでしょうか。</p> <p>③ 資料に予算の概要が示されていないので評価できないが、まとまったコレクションを借用したふたつの企画展「細川護熙 美の世界」「横山美術館名品展 明治・大正の輸出陶器技巧から意匠へ」の費用対効果は検証した方がよいと思う。特集展「さとびとみやび 失われた理想郷を求めて」の観覧者数は、同時開催の企画展「造形作家 玉田多紀 ダンボール物語」に支えられたものと思われるが、後者は学芸員と作家の綿密な調整なくては実現しない展覧会であり、SDGs といった社会的視点や、まちなか展示などの展開もあって観覧者数も多く、高く評価したい。</p> <p>④ 平塚市在住の地域に根差した方々の展覧会を希望します。また、近隣の地域の著名な方々の展覧会は興味が惹かれます。また、東海大学の学生の展覧会は新しい作品にも驚かされ、楽しいひと時となりました。</p> <p>⑤ 企画展といわれるだけに本物に幅広い様々な企画が用意され、訪れる人が楽しめる企画ですね。</p> <p>⑥ 「造形作家 玉田多紀 ダンボール物語」は以前より立体作品を作ってみたいと思っていましたが、陶器や木彫、金工等は手を出しづらいと思っていましたが、ダンボール作品を見て、材料の壁が無くなったように思いました。</p> <p>⑦ 6月から9月の企画展「造形作家 玉田多紀 段ボール物語」では、平塚市美術館の特徴である一般性と専門性がバランスされた、親しみやすい中にも生命や環境など深いテーマを意識させる展覧会だったと思います。初期作品から新作までの一連の作品群は、作家の興味が単体のいきものから、子育て経験を通じて生命や絶滅危惧種へと変遷する過程も見えて大変興味深い内容でした。</p>	
今後に期待すること	
<p>① 新収蔵品展の一部である「特集展示：藤田嗣治の初期作品」は、外部資金を利用した学術的な展示であり、興味深く拝見した。収蔵品に歴史的な意味を与え、価値を付加することは、美術館で作品を収蔵することの意義を知らせる点で大切であり、今後も可能な限り同様の試みを続けて欲しい。</p> <p>② 地域との協同「、若い力の可能性に視点を置いての展覧会に期待します。</p> <p>③ 今後の継続をお願いします。</p> <p>④ 引き続き、大衆性と専門性の両立を図りつつ、地域に根差した展覧会の開催をお願いします。</p>	

事業名	美術品の調査・収集事業
事業の感想やコメント	
<p>① 本項目について特に意見などはございません。引き続き目標内容に基づいた活動を継続していただきたいです。</p> <p>② 別の項目の範疇かとは思いますが、収蔵品の保存や修復に関する講座などを企画するのも良いのではないのでしょうか。</p> <p>③ 事業概要に記されている「調査研究や保存活動」が事業報告の中では具体的に見えない。学芸員の中には、今年度、美術館の外で講演会の講師を務めている方もいるようだし、たとえ公務でなくとも、美術館の肩書を背負って話をしているのであるから、そうした点も今後は評価すべきであると思う。</p> <p>④ 保存活動については、作品を収集し利用する以上、経年変化に応じた手当てが恒常的に必要になるので、市は美術館設置者としてその予算措置の責を負うものと考えます。</p> <p>⑤ 寄贈・寄託に対応するにはどうしたらよいか、市民の皆様はご存じなのではないでしょうか。価値の査定にもよると思いますが、幅広い広報も必要かと思えます。</p> <p>⑥ 適切に事業を進められていると思います。</p> <p>⑦ WEB を利用しない年配者が増えています。スマホがあれば家にパソコンはいらないと。スマホも電話とLINE と写真だけ。</p> <p>⑧ 数年に渡り作品の購入ができない状況が続いていましたが、令和5年度は2点購入し、寄託件数も令和4年度比較の約2倍の33点を受託し、寄贈と併せて例年以上に多数の作品が収蔵できました。令和6年度の展覧会で展示することのことで、社会教育の充実がさらに図られるものと思います。</p>	
今後に期待すること	
<p>① 学芸員には美術館外にも積極的に出て行って（執筆等を含む）、平塚市美術館の広報の一端を担って、その価値を高めて貰いたい。</p> <p>② ぜひ、良い作品に接する機会を設けていただくために、今後の活動に期待します。</p> <p>③ ケーブルテレビ等の利用は無理ですか。新しい作品をテレビ番組で見るとか。</p> <p>④ 「所蔵作品データベース」は日本語の他に英語検索が用意されていて、より多くの人に活用してもらうための配慮を感じました。一方、登録されている情報は、目録だけで実際の作品を見ることができないものもあります。過去からの経緯やデータ容量、画像追加の費用等の課題もあるかと思いますが、可能な限り作品の画像を掲載していくことで、WEBでの公開意義もより高まると思います。</p>	